

## 第5回 江別市立病院あり方検討委員会会議録

日時：平成19年2月8日（木） 午後2時55分～午後3時39分

場所：市立病院2階大会議室

出席委員：加藤委員長、星野副委員長、辻委員、山口委員、梶井委員 欠席委員：池永委員

その他出席者：市：（小川市長、中川助役、宮内健康福祉部長、佐々木総務部次長、鈴木地域医療担当参事）

市立病院事務局：（池田事務長、久田次長、桜井管理課長、佐藤参事、越田医事課長、五十嵐）

事務局コンサルタント：（株システム環境研究所（岩本所長）

（加藤委員長）

開会する。（14：55）

第4回の検討委員会で提出された答申案について、第4回の議論を受けたかたちで最終的な答申書が策定されたので、この内容について説明を。

（久田次長）

<答申案の中で第4回案から変更のあった部分について説明>

（加藤委員長）

1ページの現状分析の中で、改めてセンター病院としての役割が求められている。市民が自発的に署名運動をし、2万人を超える署名があった。

市立病院が果たすべき役割として、センター機能、ただ神経内科、皮膚科は、経営状況を考慮して、小さな再編が必要である。また、周辺人口が多く、かかりつけ医もいるので連携が必要である。

問題は3ページの緊急課題の中で、経営状況はこういう状況にあり厳しい。対応策は、専門性を大学に求める。地域医療振興協会は、都道府県が自治医科大学に奨学金を出し、地域医療を守ろうとしている。いわゆる総合医ということで、お産や小児科も少し診るが、後は専門家に委ねるという考え方。これは9年間のセンター病院も含めた勤務年限がある。今、10期ぐらい出てきている。やはり大学の壁があり、手術などの本格的なトレーニングの場が少ない。可能であればこの協会に協力をお願いし、市立病院を彼らの教育の場として提供する。そこに専門医が補充されれば、改めて北海道の地域に派遣するという場に市立病院を使っただくという精神を込めて（2）のウに述べている。

イの北海道医療対策協議会は昨年法律案の改正で、はっきりと「都道府県知事は医療対策協議会を柱に、地域医療のことを考え、国はそれを財政面で支援する。」と改正された。

一昨日開催された協議会で、江別市立病院は第1号の案件として取り上げられ、積極的に働きかけている。この2つは地域の医療を守ろうという働きかけとして重要である。

今後の課題の中で最も重要なのは4の（1）の早急の対策。アからカを実現しないと、これまでと同じことを繰り返すことになる。クラークがいないことを聞いて驚いたが、正職員でなくてよいので、医師の補助をする人が必要。医師は常にパソコン画面を見ているだけでは患者

と話す時間がなくなってしまう。これでは良い医療を提供できないので是非お願いしたい。

医事紛争については、医師は弁護士のような訓練を受けていないので悩んでしまい、リスクのある病院での勤務をやめて開業する。勤務医が置かれている厳しい条件をクリアしなければ、勤務医は勤務を続けられない。女性医師は保育所がないために、一旦休職するとその後第一線でやる自信をなくし、復帰できなくなる。シルバードクターについては、60歳で定年するのはもったいない。例えば、半日とか、女性医師であればワークシェアリング等、積極的に参画していただきたい。市立病院はコンビニではないことを市民にアピールする。

これらを早急を実現することを当委員会として強く要望する。これがなされなければ我々の提言も意味をなさないことになる。

看護師の確保については、10月頃から、7:1は病棟毎の看護単位となるので、それに見合った体制づくりをして頂きたい。今は、全く手がかからない患者にも7:1だと1万5千円もらえる。女性医師の問題でもあったが、看護師が働きやすい環境づくりが必要。看護師はできれば院内に、院内でなくても良いが、あれば病院に戻ってくる。これが看護師確保のための緊急の課題である。

市立病院では、ICUはどうか。

(梶井委員)

施設基準としての正式なかたちではないが、外科病棟のわきに数床設置している。

(加藤委員長)

4床でよいのでICUを設置し、手術後の患者を入れ、その後7:1看護の病棟に移し、その後ゆっくりした病棟に移すという風に、3ステップで管理する。診療科別ではなく、患者の重症度と看護単位による病棟管理を実現させて欲しい。

(山口委員)

先ほどの看護師が働きやすい環境というのは保育の場所ということか。実現性は別にして夜間保育、病児保育ということもあるかもしれないが、そういうことでよいか。

(加藤委員長)

然り。そこまで書くかどうかは検討の余地があるが。

経営形態の問題は星野副委員長に色々書いてもらったが、Aは一部適用だが、院長の権限は市長から大幅に譲って機能を発揮しやすいようにお願いしたい。これが一番の方法であり、その見通しもある。

Bの全部適用はかなり難しい。

Cはどうしてもという場合に検討するというニュアンスを折り込んでいる。

たまたま私が座長をしている医療対策協議会で、第2回目の具体案を提示してぜひお願いしたいということで、正式な議題に載ったので、3月末の全体の医療対策協議会で北海道が公式に要請を受けたということになる。これと並行して水面下では皆さんは大学との交渉を続けているのだと思う。

地域医療振興協会は、協会ではあるがほぼ公的な組織で、民間企業とは違う。これは自治医

大の卒業生達が地域で働けるような環境づくりのネットのまとめ役である。非常に良い組織なので、今後も連携を強めていくことが重要である。

民間には医師に登録してもらい、紹介料として給与の2.5か月分をもらう民間医局というとんでもない組織ができていて、非常に憂いている。地域医療振興協会は非常に堅実なので、市立病院としてもタイアップするのに十分価値がある。

経営形態の最後の文章で、ニュアンスとしては一部適用でいくべきということにしている。署名運動はまだ増えているのか。

(久田次長)

1万数千人とお話ししていたが、1月末に追加分が出てきて、現在2万を超えた。

(加藤委員長)

産科・婦人科の問題は全国的な問題であるが、ここでは少しこれを超えた次元の話になっている。

内科がこうなった背景の中に、1つの大学医局に全ての内科医をお願いしているという、時代の変遷に乗り遅れているところがあった。ひとつ転んだら全てダメになるという捩れ現象になっている。ここには多くの市民、しっかりした受け皿もあるが、もっと先のより優秀な医師が働けるような、しっかりとした環境づくりをお願いしたい。

皆さん如何か。

(辻委員)

この答申を受けて、市立病院もしっかり対策に取り組んでいただきたい。

(星野副委員長)

非常によくまとまっていると思う。

(山口委員)

非常に現状を捉えて、看護師の確保であるとか具体的内容で非常に意味のある内容になっていると思う。

(加藤委員長)

立場を超えて、行政の方からもバックアップをしていただきたい。

(梶井委員)

院長として非常に貴重な提言をいただいた。これを受けて我々が主体となって動いていかなければと思っている。

(加藤委員長)

それでは、市長に入室を。(市長と報道関係者入室)

委員長を拝命して、都合5回にわたって議論を積み重ねてきた。病院・市からは濃厚な資料

をしっかりと揃えていただいた。目指したところは表面的なあり方の提言ではなくて、実現可能な、早急に解決して頂きたい、近い将来の問題を突っ込んで話しをすることができ、本日答申書としてまとめた。

<答申書の概要を市長に説明>

<小川市長に答申書を手渡す>（15：32）

（小川市長）

<お礼の挨拶>

江別市立病院のあり方について本日答申を頂いた。委員の皆さまにおいては、忙しい中、市立病院のあり方に関して、委員会として貴重なご意見を頂いたことにお礼を申し上げます。

江別市立病院は昭和26年4月に開設し、それ以来、市民の健康を守るための総合的な視点から、高度な診療機能と特殊医療の充実を図る中で、また、平成10年12月には新病院として新装オープンする中で、鋭意努力をさせて頂いて来た。新病院開院後には、入院・外来合わせて受診者数は年間40万人を超え、江別市のみでなく近隣市町村を診療圏とする地域の中核的病院としての役割を担ってきた。また、平成17年度には経営健全化計画を策定し、21年度には収支を黒字化する計画のスタートラインについたところであった。しかし、そのような中、昨年3月から12名いた内科系勤務医が辞めていき、10月には不在となってしまった。その後11月に1名、今年1月に更に1名の常勤医を確保することができたが、未だ地域の医療ニーズに対応できる人数には程遠く、現在あらゆる手段を講じて医師確保に努めている状況である。こうした状況の中、11月27日に地域医療確保の方策、市立病院の役割、経営改善とあり方について当委員会に諮問させて頂いた。委員会ではそれから全5回の議論を重ね、本日の答申を頂く運びとなった。私を始め全職員は、この答申を受止め、全市的な取組みとして提言の内容を具体化し、着実に実行していく所存である。

あり方検討委員会の皆様には、大変忙しい中委員を引き受けて頂き、短い期間の中で貴重な提言を頂き、答申の策定を頂いたことに対し、重ねてお礼を申し上げます。

（加藤委員長）

今のような緊急課題が解決されると、勤務医の燃え尽き症候群が解決されるので、優秀な医師がどんどん応募して来ると確信している。

（小川市長）

気を抜かず医師確保のためにがんばりたい。

（加藤委員長）

院長が存分に力を発揮できるような場作りも是非よろしくお願ひしたい。

これをもって閉会する。（15：39）